

ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援(内視鏡領域)

● 現地の状況やニーズなどの背景情報

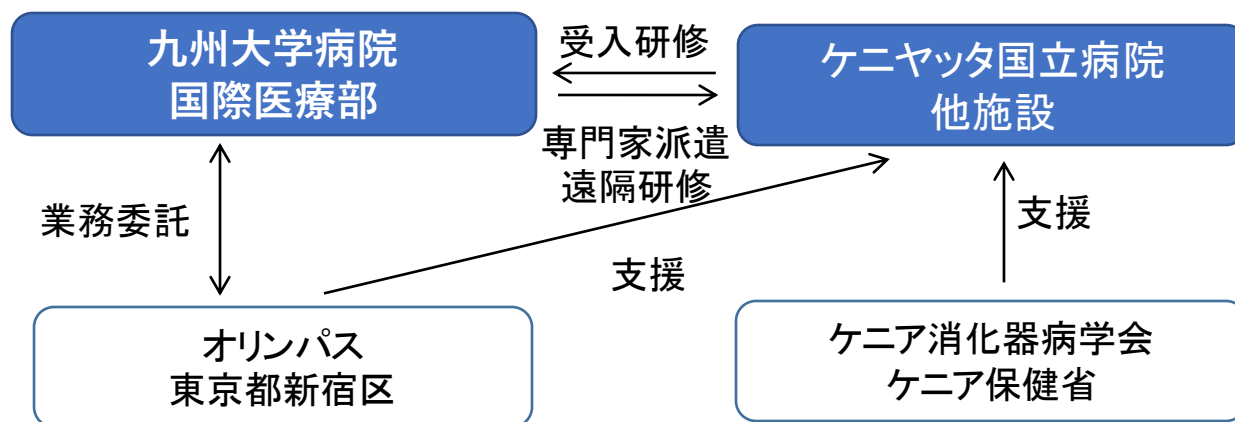
ケニアでは近年NCDsの死因割合が40.8%と増加傾向、その中でがんは死因の3位・年間死亡者数の7%を占め、消化管領域においては食道・大腸・胃がんが罹患数及び死亡数の上位となっている。またピロリ菌感染者が増加傾向にあるなど、消化器疾患の診療水準向上に向けた人材育成が急務である。

● 事業目的・概要

消化器疾患の診療水準向上に不可欠な消化器内視鏡に関する教育活動を、新興国医師向けの現地・受入及び遠隔での研修実績が豊富な九州大学病院国際医療部の協力を得て、ODAにより日本製内視鏡機器が設置されたナイロビ及び周辺カウンティの医療従事者を中心に、産学協同で研修活動を実施する。

● 期待される成果とその後の波及効果

- ・消化器内視鏡による診断・治療の普及を通じて、ケニア国民に対する消化器疾患診療の水準向上、特にがんの早期発見・早期治療の普及を進め、健康寿命の延伸に貢献する。
- ・本事業を通じて、最新の日本の医療技術及び医療機器の紹介と有用性の認知向上を図り、将来的に広くケニア国内に普及・定着することを目指す。



＜研修スケジュール予定＞

7月14日 オンライン研修

・キックオフ会議、講義

9月5日-7日 専門家派遣(3名)

・現地研修(座学・実技)

11-12月 研修生受入(5名)

・本邦研修(臨床見学等)

1月 オンライン研修

・症例検討、活動総括